

2019(平成 31)年度日本語指導支援推進校事業

実践報告集

兵庫県教育委員会

目 次

はじめに

1 本資料について

- (1) 日本語指導支援推進校事業について 1
- (2) 本資料の活用について 1

2 日本語指導について

- (1) 日本語指導とは 2
- (2) 外国人児童生徒のための J S L 対話型アセスメント D L A 2
- (3) 特別の教育課程 2
- (4) 個別の指導計画（年間指導計画） 2
- (5) J S L カリキュラム 3

3 各校の実践報告

- A 日本語指導
 - A - 1 4
 - A - 2 8
 - A - 3 14
- B 国語
 - B - 1 17
 - B - 2 21
 - B - 3 26
- C 算数・数学
 - C - 1 29
 - C - 2 33
 - C - 3 39

参考

J S L 参照枠（全体）と D L A（4 技能）の評価例

はじめに

グローバル化の進展等に伴い、兵庫県には現在、112,722人（令和元年6月末現在）の外国人の方々が暮らしています。公立学校に在籍する外国人児童生徒数は3,299人、そのうち、日本語指導が必要な外国人児童生徒は1,076人（令和元年5月1日現在）であり、近年増加傾向であるとともに、散在化傾向が進んでいます。

日本語指導が必要な外国人児童生徒にかかわる課題として、自尊感情やアイデンティティが育まれにくいという問題や、基礎学力が十分定着しておらず、進路に影響する問題などが生じています。

兵庫県教育委員会では、平成12年に「外国人児童生徒にかかわる教育指針」を策定し、外国人児童生徒の自己実現を支援するとともに、すべての児童生徒に国籍や民族等の「違い」を「違い」と認め合い、豊かに共生しようとする意欲や態度を育むなど、人権尊重を基盤に多文化共生社会の実現をめざす教育を推進しています。

平成28年度から、県立神戸甲北高等学校、県立芦屋高等学校、県立香寺高等学校の3校において、外国人生徒の特別枠選抜を設けるとともに、小学校・中学校段階で、日本語（生活言語・学習言語）の習得と基礎学力の定着を図るため、「日本語指導支援推進校事業」を実施し、3市（姫路市、芦屋市、三木市）14校に日本語指導支援員を派遣しています。2019（平成31）年度からは、県立伊丹北高等学校、県立加古川南高等学校の2校が外国人生徒の特別枠選抜校に加わり、本事業の重要性はますます高まっているといえます。今後も、指導を受けた児童生徒が各教科及びその他の教育活動に日本語で参加し、主体的に学べるように、日本語指導支援員の指導力向上と校内連携の強化をめざし、研修等において指導内容や指導方法の工夫・改善、体制の整備を図りながら、さらに事業を充実させていきたいと考えています。

本資料は、2019（平成31）年度の日本語指導支援推進校の実践を抜粋してまとめたものです。各学校における日本語指導の充実が大いに活用されることを期待しています。

令和2年3月

兵庫県教育委員会

1 本資料について

(1) 日本語指導支援推進校事業について

兵庫県教育委員会は、日本語指導が必要な外国人児童生徒に対し、実態に応じた日本語指導を推進し、日本語（生活言語、学習言語）の習得と基礎学力の定着を図るため、日本語指導支援員を派遣する市町に対して、経費の一部を補助する事業を実施しています。

2019（平成31年）度の推進校（姫路市・芦屋市・三木市）の実践を抜粋し、本資料にまとめました。なお、本資料は子ども多文化共生センターのホームページに掲載しています。

(2) 本資料の活用について

日本語指導を行うためには、日本語指導が必要な児童生徒の日本語習得状況を把握し、個別の指導計画等を作成し、系統的・継続的な支援を行うことが大切です。そこで、各推進校は、「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA」（平成26年文部科学省作成）等を用いて日本語能力測定を実施し、その結果を踏まえて日本語指導や教科指導を行っています。

下の表は、児童生徒の日本語習得状況と領域（日本語指導及び教科）を示しています。各推進校の実践を、表をもとに分類をしていますので参考にしてください。

日本語の学習段階	日本語能力の把握の方法	領 域			
	DLA（ステージ）	A 日本語指導	教 科		
			B 国語	C 数算 学数	D その他
学習段階 教科につながる	6	A-3	B-3	C-3	D-3
	5				
初期の後期段階	4	A-2	B-2	C-2	D-2
	3				
初期の前期段階	2	A-1	B-1	C-1	D-1
	1				

2 日本語指導について

(1) 日本語指導とは

児童生徒が日本語を用いて学校生活を営むとともに、学習に取り組むことができるようにすることを目的としています。

ア 「日本語を用いて学校生活を営む」ことができる

日本の学校生活や社会生活について必要な知識を学び、日本語を使って行動する力を身につけることが主な目的となります。健康・安全・関係づくりなどの観点や、教科や文房具、教室の備品名など、学校生活で日常的に使う言葉（※「サバイバル日本語」と呼ばれることがあります）などについて、その児童生徒にとって緊急性の高いものから順に指導を行うことを目的とするものです。

具体的には、挨拶の言葉や実際の場面で使用する日本語の表現を練習したり、自分の名前を平仮名や片仮名で書いたり、教室に掲示されている文字を理解できるようにしたりすることなどが考えられます。

イ 「日本語を用いて学習に取り組む」ことができる

日本語で行われる在籍学級での授業に参加し、周囲の支援や様々な関わりを通して支障なく学習に取り組むことができることが主な目的となります。

基礎的な力としての発音、文字・表記、語彙、文型に関する指導や、例えば「書く」ことに焦点を絞って段階的な指導を行うなど、児童生徒の日本語の習得状況や、学習の進捗状況に合わせて指導計画をたてる必要があります。

(2) 外国人児童生徒のための J S L 対話型アセスメント D L A

日常会話はできるが、教科学習に困難を感じている児童生徒を対象とし、言語能力を把握すると同時に、教科学習支援のあり方を検討するための資料として開発されました。

いわゆる従来型の紙筆テスト等とは異なり、テストから得られる結果を序列化するためのものではなく、テストの実施過程そのものを、学びの機会として捉えるところに特徴があります。そのため、テストの実施を指導者が児童生徒に向き合う大切な機会（対話重視）であるとし、「対話型」を基本としています。指導者と子どもが一对一で向き合うことで、日頃の学習の成果や今後の支援活動で必要となる学習内容・学習領域を絞り込んでいく上で、必要な情報を得ることができます。

(3) 特別の教育課程

帰国・外国人児童生徒等に対する日本語指導を一層充実させるため、「学校教育法施行規則の一部を改正する省令」により、当該児童生徒の在籍学級以外の教室で行われる指導について「特別の教育課程」を編成・実施することができるようになりました。

「特別の教育課程」による日本語指導は、児童生徒が日本語を用いて学校生活を営むとともに、学習に取り組むことができるようにすることを目的とし、在籍学級の教育課程の一部の時間に替えて、在籍学級以外の教室で行います。

(4) 個別の指導計画（年間指導計画）

児童生徒一人一人の実態に応じて「特別の教育課程」を編成し、きめ細かな日本語指導を行うためには、個々の児童生徒の日本語能力や学校生活への適応状況も含めた生活・学習の状況、学習への姿勢・態度等の的確な把握に基づき、指導の目標及び指導内容を明確にし、指導計画を作成することが必要です。

個別の指導計画では、個の日本語習得状況に応じて「技能別（聞く・話す・読む・書く等）」及び「各教科」の日本語指導の目標を学習段階や單元ごとに設定して、指導の充実に活かしていきます。文部科学省のホームページには様式が掲載されております。

(5) J S Lカリキュラム

J S L (Japanese as a second language) カリキュラムは、日本語の力が不十分なため、日常の学習活動についていけない外国籍の（日本語を第二言語とする）生徒の授業に参加するための日本語の力と学ぶ力（「日本語で学ぶ力」）を育成することを目的としたモデル・カリキュラムです。

平成 15 年度に小学校編、平成 18 年度に中学校編が文部科学省から刊行されています。

■参考資料

1 文部科学省

海外子女教育、帰国・外国人児童生徒教育等に関するホームページ
『CLARINET へようこそ』http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet



2 子ども多文化共生センター（兵庫県教育委員会）

<http://www.hyogo-c.ed.jp/~mc-center/>



日本語指導支援推進校事業 実践報告書

【領域：A-1】

1 児童生徒の日本語習得状況（令和元年 5月15日）

D L A ステージ	ステージ 1
------------	--------

2 児童生徒の実態

- ① 学年(小) : 第1学年
- ② 国籍及び母語 : ベトナム・ベトナム語
- ③ 在留期間 : 73ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況
 - ・生活言語は、だいたい理解できるが、学習言語の理解には支援が必要である。
 - ・音読は一字一字拾い読みの段階で、読めない文字もある。
 - ・漢字には興味をもち、少しずつ読んだり視写したりできるようになってきた。
 - ・一人で単文を書くことは難しく、かなり支援が必要である。

3 日本語指導：教材名

日本語指導：かんじだいすき（漢字カード・絵カードを使って）

4 本教材の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・漢字に親しみ、読んだり書いたりできるようになる。

5 指導内容の概要（※指導の流れ参照）

- ・漢字カルタ取りやすごろくをして、漢字に親しんでいく。
- ・漢字カルタ取りを繰り返す中で、正しく読んだり書いたりできるようにする。

6 指導における工夫点・学習の成果

- ・カルタ形式やすごろく形式を取り入れたことで、楽しく活動できた。
- ・読み手、取り手を交代することで、読みと書きの両方につなげることができた。
- ・繰り返しカルタ取りをする中で、自然に漢字を覚えられるようになった。
- ・楽しく漢字すごろくをする中で漢字を読んだり、筆順に気を付けて書いたりすることができた。

7 教材・教具（開発教材も含む）

- ・絵カード
- ・漢字カード「かんじだいすき（一）～日本語と学ぶ世界の子どものために～」

8 活動の様子



【指導の流れ】

- 1 読みの練習
絵カードをフラッシュカードとして使用
- 2 意味の確認
漢字カードと絵カードをばらばらにして机に置き、組み合わせて、意味理解の確認として使用。
- 3 カルタ取り
- 4 神経衰弱
- 5 すごろく
サイコロの目の数だけ進み、サイコロの止まったカードの漢字を読んだり、書いたりして使用。

日本語指導支援推進校事業 実践報告書

【領域：A-1】

1 児童生徒の日本語習得状況（平成31年4月16日）

DLAステージ	ステージ2
---------	-------

2 児童・生徒の実態

- ① 学年(小) : 第3学年
- ② 国籍及び母語 : シリア・アラビア語
- ③ 在留期間 : 33ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況
 - ・生活言語は使用頻度の高い言葉は理解できるが、学年相当の学習言語の理解は難しい。
 - ・音読は一字一字発音できる程度で、カタカナや漢字はほとんど読めない。
 - ・作文は、知っている日本語を並べて、ひらがなで書ける。句読点や助詞は正しく使えない。カタカナや漢字は書けない。
 - ・家庭学習が定着せず、学習に関して家庭の協力がほとんど得られない。

3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

日本語指導：書初めをしよう

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・日本の文化に慣れ親しむ。
- ・習字道具のそれぞれの名前（硯、墨汁、墨、文鎮など）を覚える。
- ・筆の持ち方に気をつけて、太く大きくのびのびと字を書くことができる。

5 指導内容の概要

- ・書初めについて知る。
- ・見本を見て、イメージやコツをつかむ。
- ・練習をして、清書を仕上げる。

6 指導における工夫点・学習の成果

- ・いつも使っている半紙と書初めに使う半紙が違うため、画仙紙の大きさについて紹介した。
- ・実際に教師が書く様子を見せることで、見通しをもって活動することができた。
- ・個別に声掛けをしながら指導することができたため、筆の持ち方や全体の字のバランスなどに気をつけて清書を仕上げるすることができた。

- 7 教材・教具（開発教材も含む）
・習字道具 ・半紙

8 活動の様子



支援員の見本を見ている様子



書初めの練習をしている様子



授業の板書の様子

日本語指導支援推進校事業 実践報告書

【領域：A－2】

1 児童生徒の日本語習得状況（平成31年4月）

DLAステージ	ステージ4
---------	-------

2 児童の実態

- ①学年（小）：第2学年
- ②国籍及び言語：中国、中国語
- ③在留期間：86ヶ月
- ④日本語習得状況及び学習状況

先生や友だちの話はほとんど理解できる。自分の意見を、手を挙げて発表するのは苦手。作文や絵をかくことにも苦手意識がある。姿勢よく座って人の話をきちんと聞くのが苦手。語彙が少ない。

3 日本語指導：単元名

（日本語を使ってスピーチをしよう）

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

日付の確認、給食メニューの好き嫌い、1日の振り返りスピーチ、ひらがなや漢字を使ったビンゴゲームなどを行い、日本語の学習をする。

- ①日付：「今日は～月～日～曜日です。」
- ②給食メニュー：「～が好きですが、～が好きじゃありません。」「～が一番好きです。」
- ③スピーチ：「いつ、どこで、だれと、何を、どんな気持ち」「～たり、～たりしました。」友だちのスピーチを聞き、質問をする。
- ④ビンゴシート：漢字ドリルより抜粋した文章を聞き取りながら、9マスの中の好きなどところに書き順や姿勢にも注意して丁寧な字で文章を書く。

5 指導内容の概要

「話す」「聞く」「読む」「書く」の一連の流れを1年間通して行い、日本語を学んでいく。助数詞や形容詞、形容動詞、副詞などを学習していく。

6 指導における工夫点・学習の成果

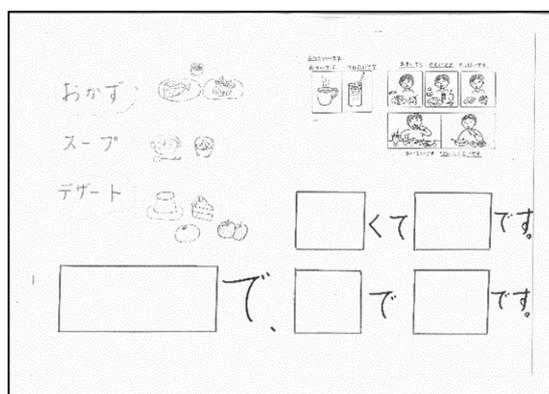
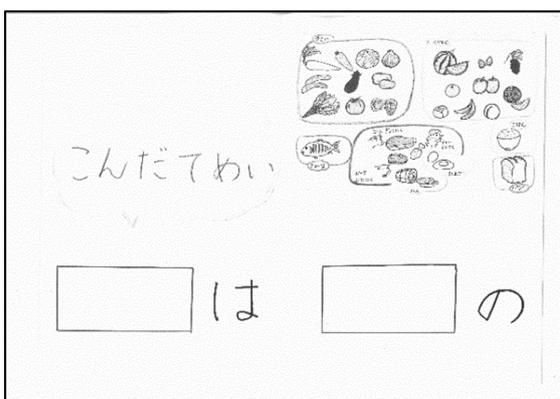
- ① 1年を通して流れを決め、季節に合った絵カードやゲームを取り入れ、自然に日本語を習得できるようにした。
- ② 1時間の中に「話す」「聞く」「読む」「書く」の学習を取り入れた。
- ③ 「話し方名人」、「聞き方名人」を意識させた。
- ④ 一人ひとりが話す場を設けることで、話し方が身に付き、在籍学級での発表や作文に自信をもって取り組むことができるようになった。

7 教材・教具

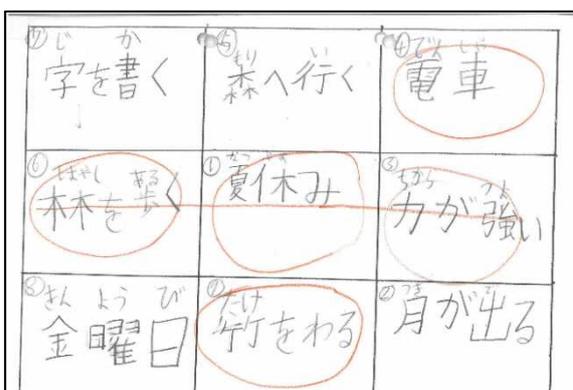
- ① 給食メニューカード
- ② 文づくりカード
- ③ 「話し方名人」、「聞き方名人」カード
- ④ 季節の絵カード
- ⑤ ビンゴシート

8 活動の様子

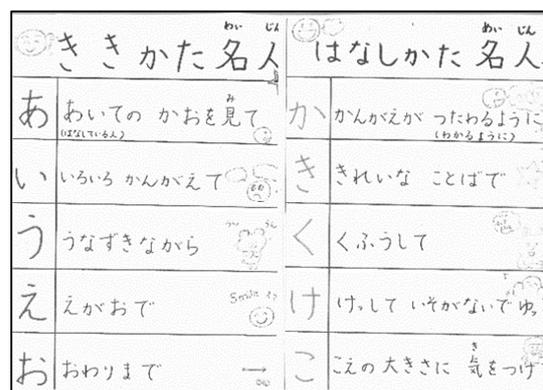
- ① 給食メニュー



- ② ビンゴシート



- ③ 話し方名人、聞き方名人



(別紙)

2年学習指導の流れ

目標：日本語を使ってスピーチをすることができる。

展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準
1 日付の確認をする。 「今日は～月～日～曜日 です。」	・日付の読み方をおさえる。	・日本語を使ってスピーチ をすることができる。(話す こと)
2 今日の給食メニュー とその好き嫌いを言う。	・献立の材料や味についても 考えさせる。	
3 今日あったことをス ピーチする。	・友だちのスピーチを聞いて 質問をすることを伝える。 ・「話し方名人」「聞き方名人」 を意識させる。 ・いつ、どこで、だれと、何 を、どんな気持ちを意識して スピーチさせる。	
4 ビンゴシートに記入 し、ビンゴをする。	・書き順や書く姿勢にも注意 して書かせる。	

日本語指導支援推進校事業 実践報告書

【領域：A-2】

1 児童生徒の日本語習得状況（令和元年5月9日）

D L A ステージ	ステージ 4
------------	--------

2 児童・生徒の実態

- ① 学年(中) : 第1学年
- ② 国籍及び母語 : フィリピン、フィリピノ語
- ③ 在留期間 : 143ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況
 - ・日本語での会話には支障はないが漢字力が不十分で教科書の読解に課題がある。

3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

（日本語指導：「五十音図」）

- ① 五十音図は仮名文字を規則的に並べたものであると同時に日本語の音節を規則的に並べたものであることを再認識する。
- ② 母音と子音の組み合わせの46の「清音」以外にも撥音（ん）、濁音、半濁音、拗音、促音、長音などがあることを確認する。

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ① ・漢字力を伸ばす。（日本語習熟トレーニングで「訓読み習得」を図る。）
 - ・計算力を伸ばす（「余りのある割り算」を早く確実にできる）
- ② ・五十音の知識は、辞書を引く上で必要事であり、辞書引きは予習など自学自習の前提でもあり、日本語習得のための土台作りとして欠かせない。
- ③ 動詞の活用についての学習でも「行」や「段」等、五十音図の知識は不可欠である。

5 指導内容の概要（※別紙参照）

- ・既習の知識の確認をして、不足を補いつつ、質問をしながら考えさせ、五十音図の規則性に気づかせる。

6 指導における工夫点・学習の成果

- ・漢字や計算練習を習慣的にすることで力が伸びてくることを実感させ、意欲向上につるがるように難易度や制限時間内にこなせる分量について配慮する。
- ・「五十音図」の並び方の規則性を理解し、何気なく使っている言葉の規則性を認識できた。
- ・国語辞典を引くことの抵抗感が軽減し、速く引くことに興味が出てきた。

7 教材・教具（開発教材も含む）

- ・入試に出題頻度の高い漢字の訓読み百題練習プリント（25 題×4 枚）
- ・余りの出る割り算計算練習プリント
- ・百マス計算プリント
- ・五十音図表（日本語チェックシート・兵庫県日本語指導連絡協議会版）

8 活動の様子

- ・漢字の訓読み練習と計算問題練習を最初の 15 分以内を目標にする習慣が身についてきて、計算時間短縮につながり、意欲向上につながった。
- ・五十音図が規則的であることを認識し、興味をもって、改めて見直していた。

(別紙)

1年学習指導の流れ

目標：「五十音図」について知識を深め、言語の規則性に気づかせる。

展開

学習活動	指導の留意点
<p>① 計算力問題練習</p> <ul style="list-style-type: none">・余りの出る割り算問題・日本語習熟トレーニング <p>※15分以内で行う</p>	<ul style="list-style-type: none">・計算を速く正確にできることを目標にする。 ※3分以内、満点を目指す。・漢字の訓読みテストを兼ねて自分の漢字の力を確かめる。読めて書けるように4回書く練習をする。 <p>※計算問題練習と合わせて時間内にできる分量を自分で決める。 ※2つの練習プリントともA B C Dの4段階で評価する。</p>
<p>② 五十音図についてどの程度の知識があるか確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none">・質問「なぜ五十音なのか？」 「母音、子音」とは？ 「ア段」が言えるか？ 「カ行のエ段は何？」 「ハ行のイ段は何？」 <p>※母音5列、子音10列の計「五十音」で「行」と「段」との規則的な組み合わせであることを認識し、五十音図は、仮名文字を規則的に並べたものであると同時に日本語の音節を規則的に並べたものであることを確認する。 (例：母音「A I U E O」の発音では舌が口内の奥の方に引っ込んでいくことを実感させる。)</p>
<p>③ 五十音図の「清音」以外の「濁音」「半濁音」「撥音」「促音」「拗音」「長音」について理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none">・「濁音」のなるのは何行か？「半濁音」は何行か？ 「拗音」は何段か？等を考えさえ規則性があることを理解する。・「ん」は「撥音」と、「っ」は「促音」と呼ぶことを「音便」と関連づける意味で確認する。・ワ行のイ段は「ゐ」、エ段は「ゑ」と書くことも知らせておく。
<p>④ まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none">・「ア」段の「アカサタナハマヤラワ」は言えて書けるか確認し、他の「イ・ウ・エ・オ」の4段も同様に言えて書けるように練習する。

日本語指導支援推進校事業 実践報告書

【領域：A-3】

1 児童生徒の日本語習得状況（令和元年5月14日）

DLAステージ	ステージ5
---------	-------

2 児童生徒の実態

- ① 学年(中) : 第3学年
- ② 国籍及び母語 : ベトナム・ベトナム語
- ③ 在留期間 : 21ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況

日常会話は十分理解できるが、小学校高学年の漢字や学習用語は十分に理解できない。ベトナムで英語を学習していたのでやさしい英語で説明すれば理解できることもある。英語のテストも日本語の問題文が理解できないために解けないことがいくらかあるが、英語の力は十分ある。数学も計算などはできるが、日本語の意味がわからないため文章問題などはできない。「かんじだいすき」を継続して学習し、5年生まで進めてきた。

3 日本語指導：教材名

※かんじだいすき5年

4 本教材の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

「かんじだいすき」の学習で、日本語の読みや意味を更に深め、発音が似た言葉は、概念が理解しやすく覚えやすいことに気づかせ、分かる喜びを持たせる。卒業して就職すると漢字や日本語を学習する機会がなくなるので、自主的に漢字などを習得していけるよう基礎力と意欲を持たせていきたい。

5 指導内容の概要（※別紙参照）

「かんじだいすき」を使って漢字を学習する。

6 指導における工夫点・学習の成果

「かんじだいすき」にベトナム語の解説を付けたものをコピーして渡し、学習しやすくする。それにより、意味の理解がしやすくなった。

7 教材・教具（開発教材も含む）

・かんじだいすき 5年プリント

8 活動の様子

罪	犯	暴	件
Tội ác	phạm tội	Bạo lực	Sự kiện
犯罪	犯人	暴力	事件
犯罪	犯人	暴力	事件
どろぼうは犯罪です。	犯人がつかまえた。	暴力はいけません。	テレビで事件を見た。
どろぼうは犯罪です。	犯人がつかまえた。	暴力はいけません。	テレビで事件を見た。
どろぼうは犯罪です。	犯人がつかまえた。	暴力はいけません。	テレビで事件を見た。
どろぼうは犯罪です。	犯人がつかまえた。	暴力はいけません。	テレビで事件を見た。

1. 親は子どもを健康で良い子に育てる責任があります。

2. 国や県の議会ではいい判断をしたらこの村にダムが建つのですか。

3. 大きい事件が起ると、テレビはそのことばかり伝えます。

4. けい察の許可がないと、車をここに止められません。

5. 戦争をしない国にすることに賛成です。

(別紙)

指導の流れ

1 教材

「かんじだいすき5年」

2 目標

日本語とベトナム語の発音が似た言葉に気づかせ、漢字の習得に役立つことを知る。

3 学習の流れ

学習活動	指導上の留意点
1 「かんじだいすき」5年を学習する。 ・漢字の意味と読みを知り、漢字を書いて覚える。	・ベトナム語の訳を書いたプリントを準備しておく。 ・漢字の意味はベトナム語の解説があるのでわかりやすい。必要に応じてやさしい英語や日本語で説明を補充する。 ・日本のアニメ等を見て、日本の習慣や文化を知っていたりするので驚かされることもある。
2 漢字の書き取りをして覚えているか確認する。	・書くことで間違いに気づき、正確に覚えられる。 ・ベトナム語と日本語の発音が似ている語句が多くあるので、そういった場合は語句の概念が理解しやすい。 ・辞書でベトナム語に訳すときは、ベトナム北部と南部の方言の違いがあるので、気をつけて確かめながら学習を進めていく。 ・「かんじだいすき」と合わせて当該学年の授業内容や学習用語も合わせて学習するように気をつけている。

日本語指導支援推進校事業 実践報告書

【領域： B-1 】

1 児童生徒の日本語習得状況（令和元年5月10日）

D L A ステージ	ステージ 1
------------	--------

2 児童・生徒の実態

- ① 学年(小) : 第1学年
- ② 国籍及び母語 : ブラジル・ポルトガル語
- ③ 在留期間 : 20ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況
 - ・日本語に堪能な叔母と日中生活することが多くあり、日本語の習得ができている。
 - ・ひらがなの読み書きはほぼできており、生活言語もかなり習得している。

3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

第1学年国語 よく見て かこう「知らせたいな、見せたいな」

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・学校にある（いる）ものについて知り、語彙数を増やす。
- ・様子を表す言葉を知る。
- ・主語・述語の文章校正を知る。
- ・知らせたいものをよく見て絵や言葉から文章に表す。

5 指導内容の概要（※別紙参照）

- ・しっかり観察して細かいところを見つけ、書きたいことをはっきりさせてから文章に書く。
- ・絵に見つけたことを単語や語句で書き込む。（形・色・大きさ・手触り・におい等五感を使った言語）
- ・文は「は、です。」この型で、一つの文に書けるようにする。
- ・句読点の打ち方、字は正しく書けているかを自分で読み返して確かめることができるようにする。
- ・新出漢字とカタカナの読み書き。

6 指導における工夫点・学習の成果

工夫点

- ・「知らせたいな、見せたいな」を読む。
- ・挿絵や例文を見ながら、家の人に知らせたいものについて考える。
- ・家の人に知らせたいものを決め、観察してカードに絵を描く。描いた絵から線を引き出し、見つけたことを書き込む。

- ・見つけた一つ一つの事柄を文にしてカードに書く。そのカードを並び替えながら順序を考える。
- ・決めた順序に沿って文章を書く。
- ・文章を読み、間違いがあれば直す。
- ・書いた文章を友だちと読み合ったり家の人に読んだりする。

6 指導における工夫点・学習の成果

- ・観察カードを使い、五感を働かせ語彙を増やした。
- ・書いて読み返すことで、見直す習慣がついた。
- ・大好きなお母さんに、学校で見つけた にとっておきのものを発見し、文章に書いて伝えるという喜びを体験させ、自信へとつなげることができた。

7 教材・教具（開発教材も含む）

- ・観察カード
- ・ホワイトボード（苦手な漢字や言葉を書き止め、すぐに反復練習）
- ・反対言葉カード
- ・「はこの中は何でしょう」ボックス（普段からクイズ形式で、箱の中身を表現する活動）

8 活動の様子



日本語指導支援推進校事業 実践報告書

【領域：B-1】

1 児童生徒の日本語習得状況（令和元年5月30日）

DLAステージ	ステージ1未満
---------	---------

2 児童・生徒の実態

- ① 学年(小) : 第6学年
- ② 国籍及び母語 : シリア・アラビア語
- ③ 在留期間 : 14か月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況

ひらがな・カタカナはほぼ書けて読める。最近は、漢字に興味を持ち学習に意欲的である。日記を書くことが毎時間の学習の課題に入れている。

3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

○国語：㊤㊦㊧を つかおう

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・助詞「は、を、へ」を使って文を書くことができる。
- ・「は」と「わ」、「を」と「お」、「へ」と「え」の読みと書きの違いを知ることができる。

5 指導内容の概要（※指導案または指導の流れを別紙にて添付）

6 指導における工夫点・学習の成果

わにの唱え歌を読むときに、分かち書きになっているので、一文字ずつ読むのではなく、単語で読むようにしていく。リズムにのって読むことで、「は・を・へ」「わ・お・え」の音を楽しみながら学習することができた。岸辺や寝転ぶなどの言葉も通訳したり、挿絵を使って説明したりした。

文章を書くときには、㊤㊦㊧を作っておき、黒板に張ることで、どこで使うことが正しいのか視覚的にわかるようにする。

音読の楽しさを知ることができて、意欲的に本読みをするようになってきた。

7 教材・教具（開発教材も含む）

小学国語「こくご一上」光村図書

8 活動の様子

学習意欲が高く、「は・を・へ」を掲示したときにも、「は」は2種類の読み方があるということを友達に教えてもらったと説明していた。名詞・助詞で「は」の読み方が違うことを理解したが、「母は」は「ははは」と読むことが難しかった。黒板に書くときには、学習している漢字を使って文を書くことができた。

日記では、初歩段階なので、出来事を文章正しく書くことをめざし、書きすすめた。



教科書の音読



漢字を使っての文章作りの活動

9 活動の流れ

学 習 活 動	指導上の留意点
1 あいさつをする。 ・めあてを確認する。	・めあてや学習内容を黒板に書いて知らせることで、意欲的に学ばせるようにする。
2 わにの唱え歌をよむ。 ・一文字ずつ読む。 ・分かち書きで読む。 ・岸辺が分からない。	・分かち書きで読めるように、意味が分からない単語を通訳、挿絵を用意しておく。
3 絵をみて文章を書く。 ・わにはあらう。 ・かおをあらう。 ・わにはかおをあらう。	・挿絵をつかって、 <input type="text"/> ㊤、 <input type="text"/> ㊦ <input type="text"/> 。の文を完成させる。文末の表現を見るようにし、同じ動詞は、最後に書くことを説明する。 ・㊤㊦㊧の掲示物をつかって黒板に文章を書く。ゲーム感覚でできるようにした。
4 プリントをする。	・助詞と名詞では、「は」や「へ」の読み方が違うことを単語に分けたり分かりやすい日本語にしたりする。
5 日記を書く。 ・「は」、「を」、「へ」を使って日記を書く。	・「は」、「を」、「へ」を上手く使えるように、板書や教科書を見て、どの部分で使うかを確認しながら書き進める。
6 ふりかえりをして、あいさつをする。	・ふりかえりをするすることで、学んだことを理解させ、次時への意欲を喚起させる。

日本語指導支援推進校事業 実践報告書

【領域：B-2】

1 児童生徒の日本語習得状況（令和元年5月8日）

DLAステージ	ステージ2
---------	-------

2 児童生徒の実態

- ① 学年(小) : 第2学年
- ② 国籍及び母語 : ベトナム・ベトナム語
- ③ 在留期間 : 13ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況

ベトナム生まれ。日常会話は、大体は聞き取ることができる。家庭では両親とは主にベトナム語、5年生の兄とは主に日本語で会話している。習得している日本語語彙が少ないため、会話で用いられる日本語も限られており、用法に誤りも見られる。発表意欲はとても高いので、さらに伸ばすためにも、本時の学習を通して感想や質問を相手に伝える言葉を習得し、表現力を身に付けさせたい。

3 教科：単元名

○国語：たからものを しょうかいしよう

4 本単元の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・大事なことを落とさないようにしながら発表を聞くことで、さらに質問したり感想を伝えたりすることができる。
- ・「わたしは、～と思いました。」の言葉を使って、自分の感想を伝えたり、「どうして～ですか。」「何が～ですか。」など、質問したい言葉を適切に使って質問したりすることができる。

5 指導内容の概要（※別紙参照）

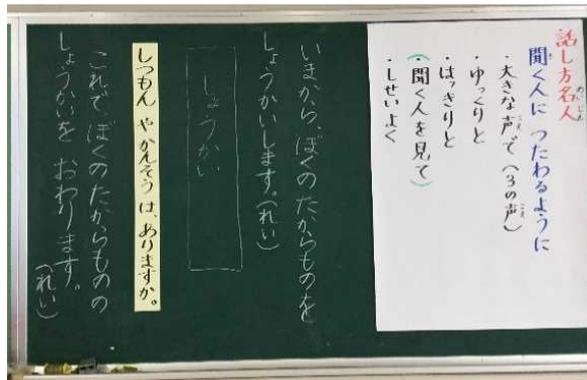
大事なことを落とさないようにしながら発表を聞くことで、さらに知りたいことを質問したり感想を伝えたりする。

6 指導における工夫点・学習の成果

質問や感想の言葉は、教師側から提示するのではなく、デジタル教科書を使って自分たちで見つけさせたり、児童の発言の中からキーとなる言葉を拾ったりして、言い方を確立できるようにした。発見した話型を板書することで、初めは挙手にためらいがあった児童も、次第に積極的に発表し、多様な質問ができるようになった。

- 7 教材・教具（開発教材も含む）
 「話し方名人」「聞き方名人」を書いたカード
 （各名人になるための項目を具体的に記載）

- 8 活動の様子
 自分たちで感想や質問の話型を作り上げていくことにより感想と質問を区別して意欲的に発表できた。また、集中して聞く姿も見られた。



板書と授業の様子



(別紙)

第2学年 日本語指導（JSL国語科）学習指導略案

1 単元名 たからものをしょうかいしよう（東京書籍）

2 本時の学習（5/7）

(1) 目標 大事なことを落とさないようにしながら発表を聞くことで、さらに知りたいことを質問したり感想を伝えたりすることができる。 【思考・判断・表現】

(2) 日本語の目標

ア 「興味をもって聞く」の意味を理解することができる。

イ 「わたしは、～と思いました。」の言葉を使って、発表者の感想と区別して、自分の感想を伝えることができる。

「どうして～ですか。」「何が～ですか。」など、質問したい言葉を適切に使って質問することができる。

ターゲットセンテンス

・もっと知りたいことは何ですか。質問しましょう。・聞いた感想を伝えましょう。

(3) 展開

学習活動	指導上の留意点（評価）	備考
1 前時の学習を振り返り、本時のめあてを知る。	・前時の「話し方名人」が気をつけることを振り返り、本時は「聞き方名人」をめあてとすることを確認する。	視覚化
<p>聞き方名人になろう。</p>		
2 聞き手として気をつけることを考える。 ○興味を持って聞く ・話している人を見て聞く。 ・どんな話か考えながら聞く。 宝物は何か どんなところが気に入っているか どんな思い出があるか ・もっと知りたいことを質問したり感想を伝えたりする。	・日ごろから提示している態度面の項目は出るかもしれないが、「興味を持って聞く」や「質問したり感想を伝えたり」等はないと思われる。その場合は、教師から提示する。 ・質問や感想を発表する時の話型を示し、言い方が分からない時の手立てとする。 ・興味をもって聞くことは発表者にとって安心感を与えることを伝え、支持的風土の中で発表できるようにする。	視覚化
3 一人ずつ前に出て自分の宝物を紹介したり質問や感想を伝えたりする。 ○宝物を発表する。 ○質問したり感想を述べたりする。	・発表者はメモを読み上げたり、スムーズに発表できなかったりすることが予想される。場合によっては、教師が代読する。 ・うなずいたり明るい表情で聞いていたりする児童がいれば評価し、広める。 ・発表者の感想と自分の抱いた感想を混乱させることが予想されるので、主語を明確にして感想が言えるよう支援する。 ・感想には、内容面と態度面に関するものがあることを伝え、多様な感想を持てるようにする。 ・共感的に聞いているか。 ・質問したり感想を述べたりしているか。	視覚化
4 本時の学習の振り返りをする。	・「聞き方名人になるには、」に続く言葉を考えさせたり自分の聞き方を振り返らせたりすることで、本時のまとめとする。 ・本時の評価を伝え、次時の交流教室での発表に向けて明るい展望を持てるようにする。	焦点化

日本語指導支援推進校事業 実践報告書

【領域：B-2】

1 児童生徒の日本語習得状況（令和元年6月19日）

DLAステージ	ステージ4
---------	-------

2 児童生徒の実態

- ① 学年：第7学年
- ② 国籍及び母語：中国・中国語
- ③ 在留期間：45ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況

ある程度の日常会話はできるが、学習言語の理解は難しい。分かりやすい言葉で丁寧に説明すれば理解することができる。家庭ではほとんど中国語を使用している。日本語の使用には意欲的であり、読み書きともに積極的に取り組んでいる。

3 教科：単元名

○国語：スズメは本当に減っているか

4 本単元の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・文章中の語句の意味を理解し、全体の内容を捉える。

5 指導内容の概要（※別紙参照）

- ・文章を通読し、段落ごとに語句の意味を確認する。
- ・全体の内容を捉え、意味段落のまとまりを確認する。

6 指導における工夫点・学習の成果

単元の初めに取り出しを行った。文章中の語句の意味を説明することで、内容を理解することができた。

7 教材・教具（開発教材も含む）

教科書、ワーク

8 活動の様子

ワークにあったスズメの写真を見ることで、文章の内容に興味をもって読み進めることができた。分からない言葉は自分から質問し、内容理解に自信が持てたようである。同室での学習につながることができた。



(別紙)

第7学年 国語科学習指導案

1 単元名 スズメは本当に減っているか (「新しい国語1」東京書籍)

2 生徒の実態

小学4年生の時に来日。家庭ではほとんど中国語を使用している。日本語の使用には意欲的であり、読み書きともに積極的に取り組んでいる。ある程度の日常会話はできるようになっているが、学習言語の理解は難しい。分かりやすい言葉で丁寧に説明すれば理解することができる。

3 目標

- ・事実と筆者の考えとを読み分けながら、文章の展開を捉える。
- ・文章の内容や、筆者のものの見方、考え方について、感想や考えを持つ。

4 指導計画 (全6時間)

第1次 (1時間) 文章中の語句の意味を理解し、全体の内容を捉える。……本時
第2次 (4時間) 意味段落ごとに事実と筆者の考えを読み分けながらまとめる。
第3次 (1時間) 筆者のものの見方考え方について

5 本時の目標

- (1) 目標 全文を通読し、意味段落のまとまりを捉える。
- (2) 日本語の目標 文章中の語句の意味を理解し、全体の内容を捉える。

6 準備物 教科書、ワーク

7 展開

学習活動	指導上の留意点	備考
1 本時の目標を確認する。		
	文章中の語句の意味を理解し、全体の内容を捉える。	
2 段落ごとに通読する。	<ul style="list-style-type: none">・読みを確認し、音読できるようにする。・段落のまとまりを確認しながら読む。・難しい語句の意味を説明する。・ワークの写真などを活用し、わかりやすい言葉で説明する。・事実と考えを表す文末表現を伝える。	教科書 ワーク
3 次時の予告を聞く。	<ul style="list-style-type: none">・次時からは同室での授業で、意味段落ごとに内容を詳しくみていくことを伝える。	

日本語指導支援推進校事業 実践報告書

【領域：B-3】

1 児童生徒の日本語習得状況（平成31年4月24日）

D L A ステージ	ステージ 3
------------	--------

2 児童生徒の実態

- ① 学年(小) : 第6学年
- ② 国籍及び母語 : ベトナム・ベトナム語
- ③ 在留期間 : 133ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況

日常会話はできているように見えるが、内容が伝わっていないことがある。学習言語は不足しており、漢字もあまり定着しておらず読んだり書いたり難しい。したがって、聞いたことはまだ理解できるが、文章を読んで理解することは難しい。算数の計算は国語よりも得意で意欲的に取り組む。

3 教科：単元名

○国語：句会を開こう

4 本単元の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・表現をくふうして俳句を作ることができる。
- ・友だちの作品のよいところに気づいて伝え合える。

5 指導内容の概要（※別紙参照）

- ・俳句の決まりについて復習し、教科書の句の工夫を見つける。その後、自分でも句を詠む練習をし、在籍学級での句会に参加できるよう準備をする。

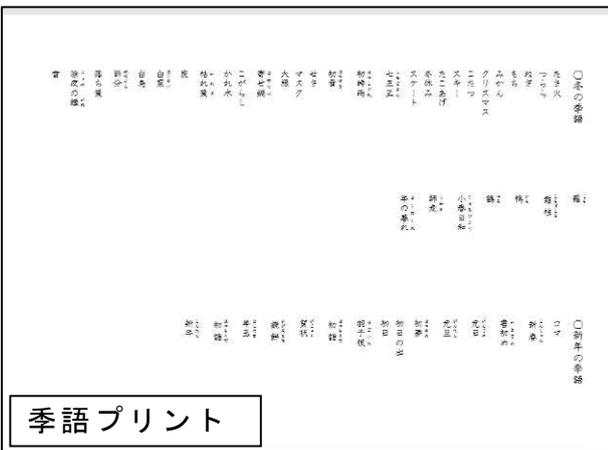
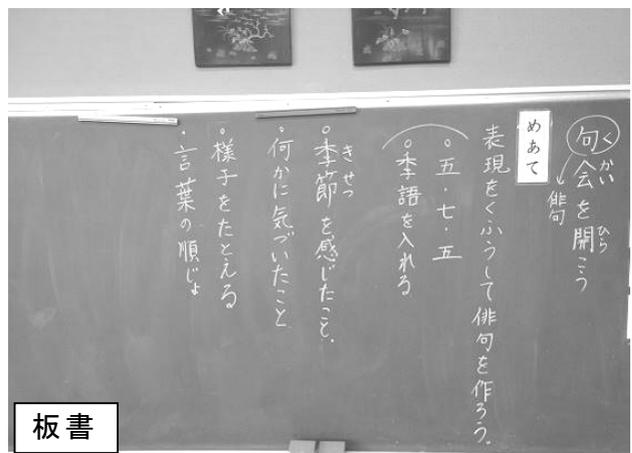
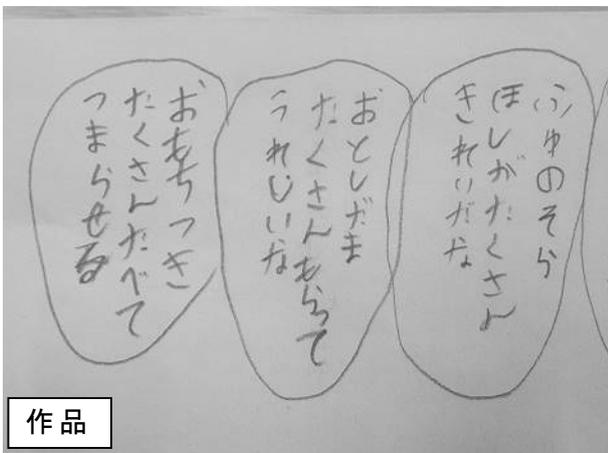
6 指導における工夫点・学習の成果

- ・最初は、季語を気にせず「五・七・五」のリズムで読ませることで、楽しんで参加できるようにする。
- ・句作の支援のため、季語の例を示す。

7 教材・教具（開発教材も含む）

- ・教科書（東京書籍 6年）

8 活動の様子



(別紙)

指導の流れ

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	備 考
1 本時のめあてをつかむ。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">表現を工夫して俳句をつくろう</div>		
2 俳句のきまりを思い出す。 ・五・七・五 ・季語を入れる。	・五年生の時に学習した俳句の学習を振り返り、俳句のきまりを思い出させる。 ・五・七・五の十七音でできていることと、季節を表す言葉（季語）を入れることを確認する。	
3 教科書の音読をする。		
4 教科書の俳句の表現のくふうを見つける。 ・言葉が入れ替わっている。 ・「さくさく」と「がきがき」 ・言葉が変わると感じが違う。	・表現の違いで、俳句の印象が違うことに気づかせる。	
5 季語を知る。 ・雪 ・お年玉 ・つらら	・代表的な冬の季語を紹介し、句作の参考にさせる。	・歳時記 ・季語プリント
6 俳句を詠んで読み合う。	・季節を感じたことや何かに気づいたことなど、くらしの中のことを何でも題材にしてよいことをつたえ、気軽に取り組めるようにする。 ・句を読み合い、一人一人の感じ方に違いがあることに気づかせる。	
7 本時の学習を振り返る。		

日本語指導支援推進校事業 実践報告書

【領域：C-1】

1 児童生徒の日本語習得状況（令和元年5月13日）

DLAステージ	ステージ1
---------	-------

2 児童生徒の実態

- ① 学年(小) : 第2学年
- ② 国籍及び母語 : ベトナム・ベトナム語
- ③ 在留期間 : 36ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況
 - ・簡単な日常語彙は理解できるが、学習特有の語彙は理解しにくい。
 - ・読み、書きはスムーズにできないことが多い。特に書くことは難しい。

3 教科：単元名

○算数：「三角形と四角形」

4 本単元の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・「長方形」「正方形」「直角三角形」の定義を理解する。
- ・「かど」「直角」「辺の長さ」などの用語を使って、「長方形」「正方形」「直角三角形」を説明できる。

5 指導内容の概要（※別紙参照）

- ・紙を折ったり切ったりする活動を通してできた形を観察し、その特徴を捉える。

6 指導における工夫点・学習の成果

色紙を実際に折ったり切ったりする時に「かど」や「直線」を意識させるようにした。特に本児は折り紙の経験が少なく、「かど」や「辺」をぴたっと合わせることに慣れていないので、時間をかけてぴたたり折ったり切ったりすることを徹底した。また、プリントに毎時間定義を書く作業を入れ、言葉の定着をはかった。

7 教材・教具（開発教材も含む）

- ・正方形・長方形・直角三角形のプラスチック製色板（ウチダ）
- ・色紙

8 活動の様子

色紙の経験が少ないので、はじめはどこを折ったらどこに線がつくか分からなかったが、ヒントを与えたり、他の子の作業を見たりする中で見当がつけられたりするようになった。「かど」や「辺」に気をつけて切り、できた形を説明できた。



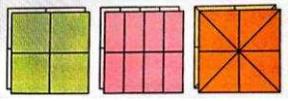
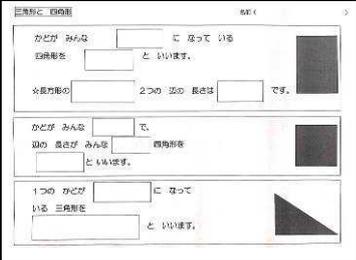
(別紙)

第2学年 日本語指導 (JSL算数科) 学習指導略案

○単元 「三角形と四角形」

○本時の学習

- (1) 目標 色紙を並べて「長方形」「正方形」「直角三角形」をつくり、その図形になる理由を説明できる。
- (2) 日本語の目標
「かど」「直角」「辺の長さ」の語を使い、「〇〇が□□になっている三角形(四角形)だから、～形です。」と説明できる。
- (3) 展開

学習活動	指導上の留意点	備考
<p>1 色紙を折って、正方形・長方形・直角三角形をつくる。</p>  <p>○プリントに書き込み、3つの図形の定義を思い出す。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・折り紙の「かど」を合わせたり、「辺」をぴったりそろえたりすることに慣れていないため、「かど」の合わせ方や「辺」のそろえ方を指導し、「かど」「辺」を定着させる。 ・折り紙の経験が少ないため、どのように折れば見本のようになるか分からないと予想されるので、その場合は折り方を教えて一緒に折る。 ・折った線をはっきりさせるため、折り目の線上に定規で直線を引かせ、直線であることを意識させる。 ・切った形が「正方形」「長方形」「直角三角形」であることをおさえる。 ・図形の定義を書くプリントをし、3つの形の定義を確認する。 	<p>色紙 はさみ 定規</p> <p>プリント</p>
<p>色紙を並べて、長方形や正方形、直角三角形をつくろう</p>		
<p>2 切った色紙を2つ使って、長方形や正方形、直角三角形をつくり、そう言える訳も考える。</p> <p>○ひとりで考える。</p> <p>○つくった形の名前と、その形と言える訳を説明する。</p> <p>3 切った色紙をもっと並べて、色々な長方形、正方形、直角三角形をつくる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動が止まっている場合は、同じ向きばかりを見ないで、回してみたり、逆さにしてみたりして動かして考えるように助言する。 ・形がいくつか作れたら、それがどの形なのかを言う練習をする。 ・活動1で書いたプリントを用いて、「かど」「辺の長さ」などの用語を使い、「〇〇が□□になっている三角形(四角形)だから～形です。」と説明させることで、図形の定義を根拠にした理由を説明させる。 ・色紙は児童の経験量が少ないため、たくさん作ることができないと思われるので、プラスチック製の色板を用意し、それを用いてたくさん作れるようにする。 	<p>プラスチック色板</p>

日本語指導支援推進校事業 実践報告書

【領域：C-1】

1 児童生徒の日本語習得状況（令和元年5月13日）

DLAステージ	ステージ1
---------	-------

2 児童生徒の実態

- ① 学年(小) : 第5学年
- ② 国籍及び母語 : ベトナム・ベトナム語
- ③ 在留期間 : 122ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況
 - ・平仮名は読めるが、片仮名や漢字はあまり読めない。
 - ・日本語の基本が定着しておらず、会話がスムーズでない。

3 教科：単元名

○算数：「分数（1）」

4 本単元の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・等しい分数の大きさを表すには、倍数、公倍数、最小公倍数を用いて通分することを理解する。

5 指導内容の概要（※別紙参照）

- ・通分の仕方を考える。公倍数を分母にすると同じ大きさの分母となり、計算しやすくなるが、最小公倍数を分母にすると簡単で分かりやすいということを見つめる。

6 指導における工夫点・学習の成果

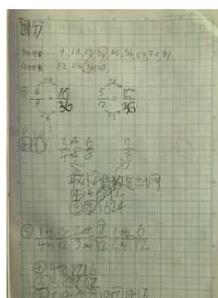
本児は、かけ算がなかなか定着せず、倍数を見つけることに時間がかかるため、まずは、一つずつ倍数を書いて公倍数を見つけて分母にすることによって時間を費やした。その結果、少しずつではあるが、通分できるようになってきた。

7 教材・教具（開発教材も含む）

- ・教科書（啓林館）

8 活動の様子

一つずつ倍数を書きだし、公倍数を探す活動を繰り返しながら、最小公倍数を使うと通分しやすいことが分かってきた。



← 児童のノート

(別紙)

第5学年 日本語指導 (J S L 算数科) 学習指導略案

1 単元名 分数 (1)

2 指導計画 (全10時間)

第1時 準備

第2～5時 等しい分数 (本時 5/10)

第6～9時 分数のたし算・ひき算

第10時 練習

3 本時の学習

(1) 本時の目標

○通分の仕方について理解を深める。

(2) 日本語の目標

○倍数、公倍数、最小公倍数の意味が分かり、通分の仕方の説明に使うことができる。

○「ターゲットセンテンス」・通分するときは、分母の最小公倍数を見つける。

(3) 展開

学習活動	指導上の留意点	備考
1 問題文を読み、本時の課題をつかむ。	・声に出して読み、本時のめあてをつかむ。 ・前時に学習した通分の仕方を復習し、「分母の公倍数を分母にする」ことを思い出させる。	
$\frac{5}{6}$ と $\frac{3}{4}$ の通分の仕方		
通分の仕方を考え、説明しよう。		
2 自己解決 $\frac{5}{6}$ と $\frac{3}{4}$ のよりよい通分の仕方を考え、説明しよう。	・6と4の倍数をそれぞれ書き出し、その中から公倍数を見つけさせる。 ・12と24では、どちらが「わかりやすい」「簡単」「いつでも使える」かを、比べながら、考えさせる。 ・通分するときは、最小公倍数を分母にした方が、簡単に分かりやすいことをおさえる。	
3 本時のまとめをする。	・何度か唱えさせて、定着させる。	
通分するときは、ふつう、分母の最小公倍数を分母にする。	・3つの分数の通分も、同じように分母の最小公倍数をみつければよいことをおさえる。 ・4.3.2の倍数をそれぞれ書き出し、最小公倍数を見つけさせる。	
4 練習問題をする。		
5 ふりかえりをする。	・わかったことなどをノートに書かせる。	

日本語指導支援推進校事業 実践報告書

【領域：C-2】

1 児童生徒の日本語習得状況（令和元年6月10日）

DLAステージ	ステージ3
---------	-------

2 児童・生徒の実態

- ① 学年(小) : 第2学年
- ② 国籍及び母語 : ロシア・ロシア語
- ③ 在留期間 : 日本生まれ
- ④ 日本語習得状況及び学習状況
 - 【話す力】使用頻度の高い言葉を使い、順序を考えて話すことができる。
 - 【読む力】1学年下の内容の長文を理解することができる。
 - 【書く力】短い文を5～10文程度をつなげ、書きまとめることができる。
 - 【聴く力】教師の話聞き、要点を理解できる。

3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

○算数：かけ算の九九

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・「～ずつふえる」から同じ数が順に増える表現を理解する。
- ・「○○が～こ分」は、一単位量がいくつ分であることを理解する。
- ・九九の特別な唱え方を正しく唱えられるようにする。

5 指導内容の概要（※別紙参照）

- ・なじみのない九九の唱え方を覚えやすくする。

6 指導における工夫点・学習の成果

算数の数や量の感覚が1年生程度の児童に、九九の歌や九九のイメージ図で、視覚や聴覚を使って慣れ親しむように指導した。

7 教材・教具（開発教材も含む）

九九カード（ジャバラ版）＊本校の教諭による開発教材
「歌ってみるみる覚える 九九・ことわざ・えと」 学研プラス

8 活動の様子

はじめは、三六「さんろく18」や、四三「しさんが12」と「が」を入れな
いところで入れてしまったりと間違っていた。

九九のイメージを何度も見せることで、「～ずつ増える」という意味が理解でき
た。九九カード（ジャバラ版）で九九の特別な読み方を練習していくと、1～5の段
まで正しく唱えられるようになってきた。

(別紙)

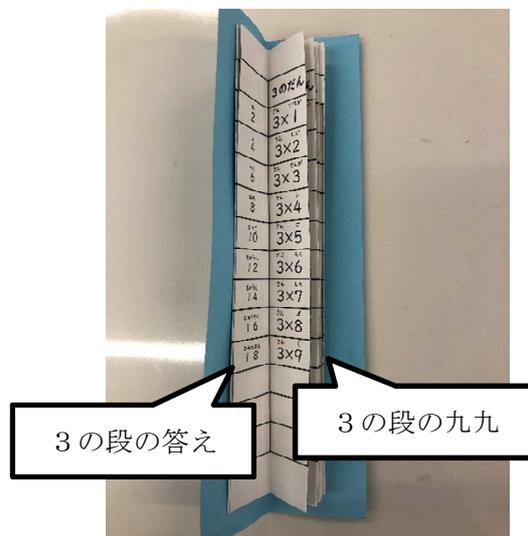
2年学習指導の流れ

目標：3の段のイメージをもちながら、九九を唱えることができる。

展開

	学習活動	指導上の留意点	評価規準【 】 評価方法（ ）
導 入	1 絵を見て、問題をとらえる。	・「これは、何ですか。」「なんびきいますか。」など会話をしながら、問題をとらえさせていく。	
	金魚が3びき入った金魚鉢があります。ぜんぶで、なんびきですか。		
	2 絵を見て、立式し答えを求め。 $3 \times 1 = 3$ $3 \times 2 = 6$ $3 \times 3 = 9$ ↓ $3 \times 9 = 27$	・1単位量×いくつ分=答え になることをつかませる。 ・金魚鉢の中にある金魚の数を数えながら、答えを見つけてよいことにする。	○3びきずつ、いくつ分になるか理解している。【知識】 (観察)
	3 九九カード(ジャバラ版)で、唱える練習をする。	・読み間違いが多いところには、黄色マーカーをつけ、意識させる。 ・ふりがなや答えを見ながら、正しく読む練習をさせる。	○正しく九九が唱えられる。【技能】 (観察)
4 文章題を解く。 答えを見て、答え合わせをする。	・自力で取り組ませる。		

教材 九九カード(ジャバラ版)



日本語指導支援推進校事業 実践報告書

【領域：C-2】

1 児童生徒の日本語習得状況（令和元年6月3日）

DLAステージ	ステージ4
---------	-------

2 児童生徒の実態

- ① 学年(小) : 第3学年
- ② 国籍及び母語 : ベトナム・ベトナム語
- ③ 在留期間 : 106ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況
 - ・日本生まれであるが、一緒に住んでいる母とはベトナム語、妹とは日本語で話している。
 - ・話すことは得意で、算数ではクラスでも挙手して答えを言うことができる。
 - ・読むことや書くことが苦手で、学年相当の漢字が読めなかったり、例えば「言う」を「ゆう」と書いたりする場面が多い。

3 教科：単元名

○算数：1けたをかけるかけ算の筆算

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・（2位数）×（1位数）で、繰り上がりのない場合の筆算の仕方を理解することができる。
- （日本語の目標）
- ・「筆算」、「位をそろえてかく」の意味を理解する。（ア）
- ・「一の位は〇〇が〇、十の位は〇〇が〇」の言い方を使って、声に出して言いながら筆算をすることができる。（イ）

5 指導内容の概要（※別紙参照）

- ・自分専用のホワイトボード上で数え棒を操作することで、筆算の意味と仕方を理解する。

6 指導における工夫点・学習の成果

工夫した点は、ホワイトボード上で数え棒を操作するなどして自分だけで考える時間を確保した点、ワークシートに予め式などは記入しておき、書く時間をできるだけ短縮した点の2つである。

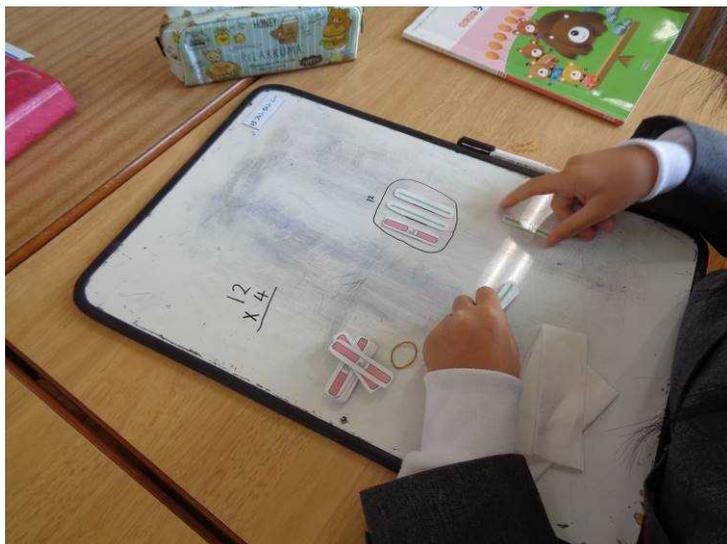
学習の成果としては、筆算の仕方を何度も繰り返し声に出して言うことで、記憶支援につながった点が挙げられる。

7 教材・教具（開発教材も含む）

- ・教科書（啓林館・下）
- ・ワークシート
- ・ホワイトボード
- ・数え棒

8 活動の様子

児童はホワイトボードを使って自分で考え、筆算の仕方を何度も声に出して言うことで、一の位から計算することなどを覚えることができた。



(別紙)

第3学年 日本語指導（JSL算数科）学習指導案

1 単元 「1けたをかけるかけ算の筆算」

2 趣旨

本単元は、(何百) × (1位数) や (何十) × (1位数) の計算を理解し、さらには (2位数) × (1位数)、(3位数) × (1位数) の筆算の仕方についての理解するものである。

児童はこれまでにかけ算の意味と九九、10のかけ算、0のかけ算などについて学習している。しかし、日本語での読み取りが苦手な児童にとっては、かけ算の意味などについては曖昧にしか捉えられておらず、また、既習事項である九九やたし算、筆算の位取りが完全には身につけていない児童もあり、混乱が予想される。

指導にあたってはまず、既習のかけ算と結びつけ、被乗数が(何十)、(何百)と大きくなっても立式・計算できることを確認する。次に、(2位数) × (1位数) の計算は十進位取り記数法に基づいて、かけられる数を十の位と一の位に分けて考えるとよいことに気づかせる。さらに、この考え方を筆算形式と結び付け、計算の順序・書き方・唱え方を知り、筆算の仕方を十分に理解できるようにしたい。

3 指導計画指導計画 (14時間)

第一次 何十・何百のかけ算・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(1時間)

第二次 (2けた) × (1けた) の筆算・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(6時間)

第1時 (2位数) × (1位数) の式に表し、十進位取り記数法を使って計算ができる。

第2時 (2位数) × (1位数) で繰り上がりのない筆算ができる。(本時)

第3時 (2位数) × (1位数) で一の位に繰り上がりが1回ある場合の筆算ができる。

第4時 (2位数) × (1位数) で十の位に繰り上がりが1回ある場合の筆算ができる。

第5時 (2位数) × (1位数) で繰り上がりが2回ある場合の筆算ができる。

第6時 練習問題

第三次 (3けた) × (1けた) の筆算・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(4時間)

第四次 暗算・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(1時間)

第五次 たしかめ・復習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(2時間)

4 単元目標

- ・(2、3位数) × (1位数) の計算方法を考え、筆算や暗算のよさに気づくことができる。
(関心・意欲・態度)
- ・(何百・何十) × (1位数) の計算の仕方を10や100を単位として考えることができる。
(数学的な考え方)
- ・(2、3位数) × (1位数) の計算の仕方を、数の仕組みや計算のきまりをもとに考えることができる。
(数学的な考え方)
- ・(2、3位数) × (1位数) の計算を筆算や暗算で解くことができる。(技能)
- ・(2、3位数) × (1位数) の計算の仕方を理解することができる。(知識・理解)

5 本時の目標

(1) 目標

- ・(2位数) × (1位数) で、繰り上がりのない場合の筆算の仕方を理解する。

(2) 日本語の目標

- ・「筆算」、「位をそろえてかく」の意味を理解する。(ア)
- ・「一の位は〇〇が〇、十の位は〇〇が〇」の言い方を使って、口に出して言いながら筆算をすることができる。(イ)

(3) ターゲットセンテンス

- ・筆算のしかたを考えよう。

6 学習展開

学習活動	○発問 ・ 指導上の留意点 ◆評価	備考
1 問題の把握。	○「 12×4 」を計算してみましょう。 ・前時の計算の仕方を想起させる。 ・12を10と2に分けて計算させる。 $10 \times 4 = 40$ $2 \times 4 = 8$ 40と8を合わせて48	ホワイトボード
【考えを出させる問い】 「(2位数) × (1位数)」の筆算のしかたを考えよう。		
2 12×4 の計算の仕方を考える。	○「 12×4 」を筆算の式にしてみましょう。 ・たし算やひき算の筆算の式を想起させる。 ⇒位をそろえて縦にかく。 ○計算してみましょう。 ・前時で用いた計算の仕方をもとに、数え棒を手がかりにして考えさせる。	数え棒
【考えを深める問い】 「 12×4 」の筆算の仕方を声に出して言おう。		
3 声に出して言いながら筆算をする。	◆「一の位は四二が8、十の位は四一が4」と言いながら計算することができる。	
4 練習問題を解く。	◆位をそろえて筆算の式を書くことができる。 ◆「一の位は三二が6、十の位は三一が3」などと言いながら筆算をすることができる。	ワークシート

日本語指導支援推進校事業 実践報告書

【領域：C-3】

1 児童生徒の日本語習得状況（平成31年4月20日）

DLAステージ	ステージ2
---------	-------

2 児童生徒の実態

- ① 学年(中) : 第2学年
- ② 国籍及び母語 : ベトナム・ベトナム語
- ③ 在留期間 : 6ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況

1年生9月に来日する。直後から3月まで、毎日4時間日本語の学習を行った。
2年生4月からは、5教科の取り出し授業を行う。9月から数学、国語の取り出し授業を月に3回程度行っている。

3 教科：単元名

○数学：多項式の乗法・除法

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・多項式の意味を十分理解している。
- ・使用している言葉や表現を理解している。

5 指導内容の概要（※別紙参照）

多項式の意味を理解させる。

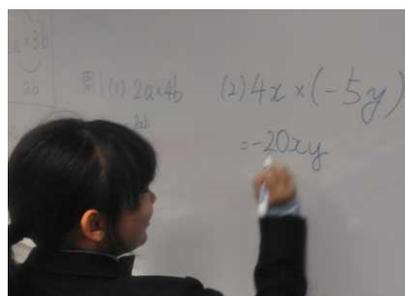
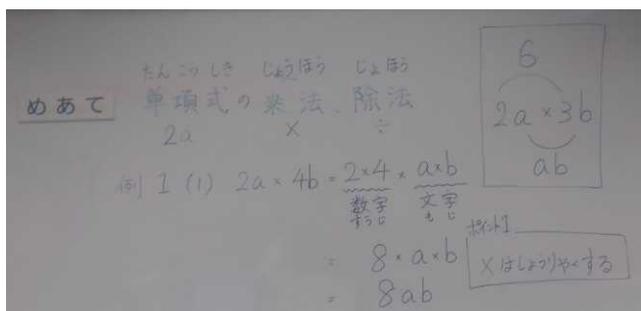
6 指導における工夫点・学習の成果

使用している言葉の意味を1つ、1つ理解させ取り組ませることで、自信を持って学ぼうとする姿勢や向学心を持てるようになった。

7 教材・教具（開発教材も含む）

・教科書 ・ワーク ・ノート

8 活動の様子



(別紙)

指導の流れ

	学習内容及び活動	確認内容
導入	・多項式について確認する。	
展開	・単項式の乗法 ・指数をふくむ計算 ・単項式の除法 ・分数をふくむ式の除法 ・乗除の混じった計算 ・3つの式の除法	九九 指数の計算 分数の計算
まとめ	・練習問題	

< JSL参照枠(全体)とDLA(4技能)の評価例 >

文部科学省 外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLAから

ステージ 学齢期の子どもの在籍学級参加との関係	DLA<話す>					DLA 読む>					DLA<書く>					DLA<聴く>			支援の段階	日本語の学習段階	
	話の内容とまとめ	文・段落の質*	文法的正確度	語彙*	発音・流暢度*	話す態度	読解力	読書行動	音読行動*	語彙・漢字*	読書習慣・興味・態度	内容	構成*	文の質・正確度	語彙・漢字力	書字力・表記ルール*	書く態度	聴解力*			聴解行動
6	教科内容と関連したトピックについて理解し、積極的に授業に参加できる	まとまった話が1人でできる 年齢相応の教科学習語彙が使える 発音が自然で、流暢度が大変高い					文や意味のまとまりに区切りながら、流暢に読める 年齢相応の語彙や漢字がよく理解できる					まとまりのある作文が書ける 効果的な段落が作れる 表記上、正確度の高い文章が書ける					教師の話の内容の大筋と流れがよく理解できる			自律学習段階 支援付き	教科につながる学習段階
5	教科内容と関連したトピックについて理解し、授業にある程度の支援を得て参加できる	ある程度まとまった話ができる 教科学習語彙がある程度使える 発音が自然で、流暢度が高い					ややゆっくりではあるが、だいたい文や意味のまとまりに区切って読める 年齢相応の語彙や漢字がある程度理解できる					ある程度まとまりのある作文が書ける 段落が作れる 表記上、誤用が少ない文章が書ける					教師の話の内容の大筋と流れがある程度理解できる				
4	日常的なトピックについて理解し、学級活動にある程度参加できる	文を生成し、ある程度連文ができる 日常語彙が使える 発音が自然で、流暢度がある					安定して文節や単語に区切って読める 1つ下の年齢枠の語彙や漢字が理解できる					文と文をつなげて、流れのある作文が書ける 表記上の誤用はあるが、意味は通じる文が書ける					身近な内容の話をして聞いて大体理解できる			個別学習支援段階	初期の後期段階
3	支援を得て、日常的なトピックについて理解し、学級活動にも部分的にある程度参加できる	単文レベルの応答ができる 身近な日常語彙が使える 流暢度が低い					ゆっくりではあるがだいたい文節や単語に区切って読める 支援を得て、2つ(または3つ)下の年齢枠の語彙や漢字がある程度理解できる					テーマと関連がある複数の文が書ける 文字・表記上の誤用が多い					ごく短い身近な内容の話をして聞いて支援を得る程度理解できる				
2	支援を得て、学校生活に必要な日本語の習得が進む	二語文 基礎語彙が使える 流暢さなし					文字習得が進む 身の回りの語彙を聞く、または、読んで、理解できる					文を書こうとする 表記ルールをある程度理解して文を書こうとする					評価対象外			初期支援段階	初期の前期段階
1	学校生活に必要な日本語の習得が始まる。	一語文 わずかな基礎語彙が使える 流暢さ無し					文字習得が始まる 身の回りのよく知っている語彙を聞く、または、読んで、理解できる					いくつかの関連する単語を並べることができる 表記ルールについての理解が始まる									

(一年以内)

(6か月以内)